

第4回総合教育会議(関係者ヒアリング)のまとめ

区分	現状・課題	今後求められる内容	対応策・取組	出された意見等
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学力は全国平均を上回る ・多様な課題を持つ子どもが年々増加 ・「自分で課題を立て、情報を集め、調べたことを発表する学習に取り組む」は全国平均以下(▲10ポイント) ・人と関わりたいという意識を持っている子どもが少なく、それに伴い社会性や規範意識が希薄になっている ・「勉強は大切だ」という子どもは多いが「勉強が好きだ」という子どもは減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性に対応した教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの多様性を生かす支援(例:特別支援教育支援員の配置) ・アクティブラーニングの推進 ・「自己有用感」が大事→人の役に立ったと実感した時、学びの意欲や探究心、規範意識が高まる ・一人ひとりの子どもの狙いに対応した個別評価を行う ・地域でなくなってきた異年齢の関わりを学校が補完(例:学校での縦割り交流活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性の背景には、人間関係の希薄さ・地域との関わり方の脆弱化がある ・支援員の拡充を希望 ・アクティブラーニングの取組は不十分(例:理科の実験の時間数を増やす→他の授業数に影響する) ・学校での評価が「自己有用感」につながる評価になっていない(できない所をクローズアップ)
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人間関係の希薄化・異年齢交流の不足→子どもたちが地域の中で人間として成長することが困難な時代 ・自治会による児童の見守り活動・ボランティア活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への参加、異年齢間の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連携し、子どもたちにも地域活動に主体的に参加してもらう(例:地域の清掃活動) ・学校で実施する防災の取組に地域が参加するなど、実用的な面で学校と地域が連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは守られるべき立場→地域の一員としての自覚を持ち、大人になって地域に還元する立場になれるような人間に育てほしい ・塾や習い事のため地域活動に参加しにくくなっているが、興味があるものには積極的に参加(例:コミュニティパーク事業) ・子どもが地域に貢献する場づくりが大切
郷土学習	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化を学ぼうというニーズが高い(郷土意識が強い) ・学校授業の中で、生駒の文化を教える機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「郷土愛」を持つ→社会で貢献できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒の歴史文化を学ぶ研修の機会を設ける ・社会科副読本への記載等の工夫、活用 ・ふるさとミュージアムの利便性確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域の歴史文化を大切にしない社会には明るい未来は期待できない
子育て、障害児教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が社会に出ていくときの社会貢献に関するリアリティが年々欠けてきている ・子育て、親になることについての認識不足 ・生活支援センターあすなろで、発達障害を持つ子どもへの支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てしやすい環境 ・発達障害を持つ子どもへの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が子育てをよりリアルに認識し関心が向くように市の政策で子育てについて学ぶチャンスを与える ・市の活動に学生を積極的に活用 ・幼稚園、保育所での特別支援の取組(加配などの人的配置) ・ことばの教室での取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカでは、親になるにはメンタル面での強さが必要であること、子育てに必要なお金の計算など現実的な話を子どもたちに伝えている
スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの運営(現在市内で3クラブ) ・ただし、クラブ会員数の伸び悩み、学校や様々な団体との連携が進まない状況がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた規範意識の醸成 ・子どもたちの体力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの活用、学校との連携事業の一層の推進(例:学校部活動への指導者派遣事業、地域住民との交流事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブの認知度がまだまだ低い ・スポーツ活動を通して、子どもたちが地域の方と触れ合い、社会で生き抜く力を育んでほしい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちには、自分が社会の一員であるという意識、生駒で生活しているという意識が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育においても「社会で生きる」という意識を持たず教育が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・家のお手伝い、近所の清掃など身近なことを子どもに責任を持ってさせることが必要 ・小さい頃から政治にも関心を持つ→シチズンシップ教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代は面白いと思ったことには自発的に参加→市、学校、地域が活動のきっかけを与える場作りを行う